

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ

第144版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家絵本家 聴福庵

## 発表園のご紹介



あそびの中で遊びながら、ボタンのつけはずしが徐々に出来るようになりました。  
配慮事項の内容を写真つきでご紹介頂きました！

助けを受けながら、衣服を自分で着脱する」です。

こちらの項目に対して園では、「フェルトに大きめのボタンのついた玩具や子ども用パジャマなどを用意し、遊びの中ではめたり、はずしたりすることに興味を持って手先の動きに器用さが出るようにしていきます。」と配慮事項を書かれ、写真のような実践を取り組まれたそうです。

参加園からは、「自分の服でも、ボタンをはずしてみよう！という姿は見られるようになってきましたか？」など多くの質問が寄せられています。後編は、その後の子どもたちの様子や質問にもお答え頂く予定です。

第3回のウェビナーは8月31日（前編）、10月26日（後編）開催します。現在、申込受付中です。



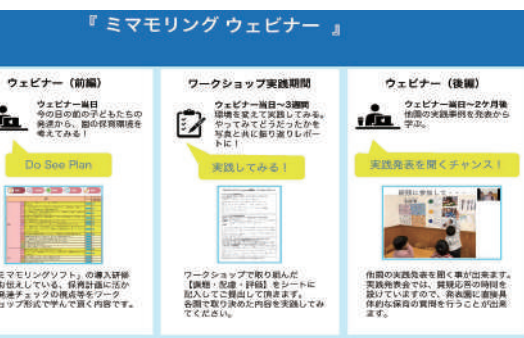
第3回のお申し込みはこちらのQRコードから。  
締切は8月26日（木）です。

弊社主催、第2回『ミマモリングソフト』ウェビナーを開催しました。前編・後編の2部構成のセミナーで、約30施設の園にご参加頂きました。前編は、導入研修でお伝えしている内容をワークシヨップ形式で体験頂くプログラムです。

ウェビナーの特徴は、園同士が保育実践を共有し、真似し合ったり、実践発表を聞きたい園の取り組みに投票できることです。今回、実践発表して頂く園は、東京都のさかいりんごの木保育園様。発表内容の1つは、保育所保育指針の健康領域「保育者の手

## 丁寧な暮らしへ

5月25日に行われた弊社主催の『ミマモリングソフト』ウェビナーでは、30施設・百名以上の先生方にご参加いただきました。



保育環境を変える機会として活用頂けます。  
(ゾーンやコーナー)  
子ども達を見守っていくための環境づくりワークショップです。

今回のオンラインセミナーでは、各園の先生方が実際に保育で見守っている子ども達の発達をミマモリングソフトウエアでチェックをして頂きました。

そして、「今の発達状況」と「次の発達課題」を理解し、「子ども達が主体的に発達していくにはどんな環境を用意していけば良いのか」ということをそれぞれ話し合っており、そしてセミナー終了後3週間を掛けて実践して頂きました。

その実践事例の中からセミナー参加者の投票により後編セミナーで実践発表をする園が決まりました。選ばれた園の中で、唯一の「以上児クラス」の実践事例として選ばれたのが新宿こだま保育園様でした。

「具体的な物を通して、数や量などに関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。」という環境の領域の「色・数・量」のカタゴリの発達項目に対して、生活空間に興味の持てるような掲示をしてみたり、活動の中でお店に行ったり、数のやりとりができる環境を用意していました。



五色の短冊や素麺には厄除けの意味も込められています。

子ども達に対して日常を壊すことなく、「日々の暮らしの中で自然と発達が遂げられる配慮」をしている先生方を見ていると、「子ども達の暮らし」がどんどんと丁寧なものになっていくのを感じます。詳細をお聞きできる後編セミナーの実践発表が楽しみです！

## 七夕行事



畑から採れたての夏野菜を感謝の心で室礼しました。

今月は、聴福庵でも七夕の室礼を行い、来庵された方々と共に短冊へ願いを込めたり、五色の素麺を味わったりと、七夕行事を楽しませて頂きました。

五節供のひとつである七夕行事は、夏野菜の収穫の「感謝祭」や、日本の古代信仰の「棚機（たなはた）」、そして中国から入ってきた織姫・彦星の「星祭りの伝説」や女性が手芸、裁縫の上達を願う「乞巧奠（きこうでん・きっこうでん）」などが合わさってきたものとされています。

また、七夕はもともと先祖供養のための盆行事だったともいわれています。旧暦のお盆は7月15日頃なので、その一週間前である7月7日頃にはちようどお盆の準備をする頃にもあたります。そのため、お盆にあわせて身を清めたり、梅雨どきにたまった井戸の底の泥を取り除いたりなどして、不浄を清める風習がありました。現在もお墓を掃除したり、仏具を洗ったりする「七日盆」と言う習わしが残っています。

園でも様々な行事があるように、私たちの暮らしには様々な年中行事が存在します。そんな行事を深めれば深めるほどに、その背景や意味深さに驚き感動したり、ご先祖様との繋がりを思い出し感謝する機会になっています。忙しい毎日だからこそ、先人たちが残して下さった心豊かに人生をいこうとする行事を、子どもたちにも繋いでいけたらと思います。



カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 暮らしの音



時代が変わっても、五感は研ぎ澄ませたいものです。

日々の生活の中で、私たちはたくさんの音に囲まれて生活をしています。車が走る音、工事の音など機械的なものから、鳥の声、風の音、雨の音など自然が生み出す音。また、家の中にも心地良いと感じる音から時には不快に感じる音まで、無音になることは珍しいくらい音に溢れています。

その中でも子どもたちに感じて

らいたい、残していきたいと思うのは、昔から家の中にあつたであろう「暮らしの音」です。  
例えばかつお節を削る音、包丁を研ぐ音など、便利になった今は失われつつある音を通して、どこか懐かしく豊かな暮らしに再会できるように思います。今の子どもたちにとっては「再会」ではなく「出会い」かもしれませんね。

便利になったこともそれなりに豊かなものかもしれませんが、粉末出汁と、削りたてのかつお節出汁の味の違いは子どもたちを感じてほしいですし、かつお節を削る音からその味を思い出せるのは本当の意味で豊かなことだと感じます。

未来を創るのは子どもたちです。その子どもたちが描く未来の選択肢の中に、この「暮らしの音」を残しておきたいと思うのです。

## 待てなくなっただい？！

### 日本の智と慧

今年はいよいよ具合に梅が漬かり、梅雨明けの青天を待ち望んでいます。昔はこのように「待つ」ことは日常にありふれていたでしょう。季節の移ろいを待ち、花が咲くのを待ち、お漬物が漬かるのを待ちました。荷物が届くのを待ち、手紙の返事も心待ちにしました。また、相手が自身で気づくまで待ち、出来るようになるまで待つてあげる余裕もありました。いつの間にか、すっかり待てなくなつて、「待つことは無駄」となり、やり直しはできず、介護されるお年

寄りまでもがせかされていきます。今では「欲しい結果」ばかりを焦って、変化の先にある「新しい未来」を楽しみにする余裕がありません。昔はいろいろ待ちわびつつ、不安と闘いながらも「信じる力」を養うという「時を生かす智慧」がありました。いま一度「自然な変化と成長」を信じて寄り添う時間を取り戻したいものです。



美味しい梅干しになる条件が揃うまでゆっくり待ちます。後は彼らが私達の為に壺中でじっくり待ってくれますから！

## 「和樂(わら)」の甦生

### 一期一会庵

### 藁ぶき古民家

先日、無事に藁ぶき古民家甦生のお披露目会を行うことができました。昨年の12月より取り掛かり始め、ようやく「暮らしフルネス™」を実践できる道場として甦生しスタートすることができました。

お披露目会では石鎚神社の宮司様より古式の祈禱によって氏神様、地域の信仰の神様たちに感謝をし供養をしていただきました。同時に家の厄除けをし結果をばり、参加の方々全員のお祓いもしていただきました。

御祈禱のはじまりと終わりに私も一緒に法螺貝を立てましたが、遠くから法螺貝で呼応する方が出てきたりと不思議な体験もしました。

そしてこの藁ぶき古民家の甦生のプロセスを動画編集したものをみんなで一緒に観て、多くの事件に多くの御蔭様が働き、家が甦生し、私たち自身も深く磨かれたことを実感しました。

この古民家で捨てられて止まっていたゼンマイ式の古時計を再び動かすレモニーをやり、その後はギターとの伴奏でカントリーロードを

歌い、みんなで手拍子をして温かい雰囲気味わいました。

おわりに、家主になる弊社役員と私からお餅撒きをしてみんなにお福分けをさせていただきました。そのお餅はそのまま炭火で焼いたりして、一日中和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。

来てくださった方々はみんな「あの家がこんなになるのか」と一様に感激されており、私自身もこの古い藁ぶき古民家から本当に多くのことを学ばせていただきました。この半年間、徳を磨き徳を光らせる機会とご縁をいただけたことに何よりも深く感謝しています。

日本人は、暮らしの中に先祖から譲り受けてきた宝珠があります。それを磨きなすことで日本人の徳は光り輝きます。子どもたちが将来、安心して生きていける世の中にするには今の私たちの世代がその宝珠をつなぎ、磨き輝かせてつないでいかなければなりません。

この気づきと共に伝統的な暮らしのリズムを実践し、子どもたちに譲り遺していきたい先人の知恵を伝承する仕組みをいつの日か提供していきたいと思えます。

お客様や皆様にご提案できる日を楽しみにこの場で実践を磨いていきたいと思えます。

### 編集後記



「和樂」の8か月にわたる甦生の軌跡の動画はこちら

「一期一会庵」にもあるとおり、沢山の方々のご協力、見守りのおかげで、無事にハレの日を迎えられ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。「和樂」の名のとおり、仲良く争わず笑い楽しみながら、素敵なハーモニー(調和)を築(かな)でられる場となるよう、家主として自分らしく取り組んでいきたいと思っています。そしてそんな場やコミュニケーション、生き方働き方が、次世代の希望ある選択肢のひとつとなれるよう、暮らしフルネスを軸に色々と模索しながら挑戦したいと思えますので、今後ともよろしくお願ひします。(宮前)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-6733-7722

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

